

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 情報提供日  | 平成 30 年（2018 年）3 月 22 日   |
| 問い合わせ先 | 明石市 文化・スポーツ室<br>文化振興課（稲原） |
|        | 918-5629（内線 7545）         |

報道機関 各位

## ～本立寺所蔵三十番神像と林崎三本松瓦窯跡群出土瓦を明石市指定文化財に指定～

このたび、明石市教育委員会では明石市文化財審議会（会長 冷泉為人）の答申を受け、本立寺所蔵三十番神像と林崎三本松瓦窯跡群出土瓦を市の指定文化財に指定しましたのでお知らせします。今回の指定により明石市指定文化財は 35 件から 37 件になります。

### 1. 対象文化財

#### (1) 三十番神像

- ① 所在地 明石市日富美町 6 番 8 号
- ② 所有者 本立寺
- ③ 時代 室町時代（15 世紀）
- ④ 寸法 縦 91.2 cm、横 47.4 cm
- ⑤ 概要

本立寺所蔵三十番神像は神仏習合の信仰で、毎日交替で国家や経典などを守護する三十柱の神々を描いた画像です。縦 6 段、横 5 段に三曲屏さんきょくびょうを背にした神像が並び、金泥きんぬいなどを用い、色彩鮮やかに表現されています。制作年代は目の粗い画絹えぎぬの使用や珍しい図像表現などから室町時代頃とされます。現存する作例の中でも古く、中世における信仰のあり方を知る上で貴重な資料となります。

#### (2) 林崎三本松瓦窯跡群出土瓦

- ① 所在地 明石市上ノ丸 2 丁目 13 番 1 号（明石市文化博物館）
- ② 所有者 明石市
- ③ 時代 平安時代（12 世紀）
- ④ 員数 鬼瓦 2 点 軒丸瓦 81 点 軒平瓦 132 点 計 215 点
- ⑤ 概要

林崎三本松瓦窯跡群は明石市林崎町 3 丁目に所在する遺跡です。平成 8 年度から 15 年度にかけて発掘調査が行われ、瓦を焼いた窯跡 16 基が検出されました。ここで焼かれた瓦は 12 世紀初頭から 12 世紀末葉までの間に、平安京や福原京などに運ばれたことが明らかにされています。林崎三本松瓦窯跡群出土瓦は、古代から中世への転換期における瓦工人の動向や政治的様相を理解する上できわめて重要な資料となります。

## さんじゅうばんじんぞう 三十番神像

### (1) 本立寺

本立寺は小笠原忠政によって信州松本に本源寺として建立されたのが始まりとされ、忠政が明石へ移封した際、本源寺も移転し寺号を本立寺と改称した。本立寺所蔵の三十番神像は日蓮宗である勅願所一道院(京都)に伝来していたものである。一道院は靈元天皇との関わりもあり最盛をきわめたが、昭和 20(1945)年に強制疎開を強いられ全建物が取り壊されたため、一道院の住職が宝物一式を親戚筋にあたる明石の本立寺に移転し、本立寺と一道院を合併させ現在に至る。

### (2) 三十番神

三十番神とは神仏習合の信仰で、1カ月30日に毎日交替で国家や経典を守護するとして三十柱の神々のことである。慈覚大師円仁が如法経を守護するために十二神を勧請したことが始まりとされる。その後鎌倉時代以降、日蓮宗や吉田神道で三十番神信仰を取り入れ、江戸時代には広く一般に普及したという。江戸時代中頃になると、画像から木像へと転換され、信仰されるようになった。明治時代には神仏分離令により三十番神信仰が禁止され、三十番神堂などが破壊された。

### (3) 三十番神像の画像形式の特徴

三十番神像の画像形式としては坐像と立像の二つの形式にわかれる。立像で描かれているものは天台宗の影響下で古風な作風が多い。現在最も古いとされているのは、14世紀まで遡ると推定される神奈川県金沢文庫保管称名寺所蔵本が挙げられる。坐像形式は日蓮宗での作例が多く、天照や八幡を中心とする考えから二神を上段に置くものが多い。15世紀の作例は少なく、京都市本法寺所蔵本が基準作としてあげられる。近世の三十番神像は女神方の数の割合が高まる。特に天照、客人、熱田、稻荷はほとんど女神で表現される。

### (4) 本立寺蔵三十番神像

当画像は縦6段、横5列に三曲屏を背にした坐像形式の三十神を描き、縦91.4cm、横47.4cmの室町時代に多い目の粗い画絹えぎぬを使用した掛幅形式をとる。剥落退色が進んでいるが、赤色系顔料は概ね良好であり制作当初は色彩鮮やかであったと思われる。顔の輪郭線と着衣線などの描線の描き分けや色彩豊かな顔料の使用、金泥、きりかね截金を多用していることなどから高度な技術を持った絵師によるものと考えられ、精細で優れた鑑賞性を有する画像である。

制作年代は、丁寧で古風な作風や図像表現、また三十番神像の坐像形式の基準作である本法寺所蔵本に神像の配列等が近いことから15世紀頃と推定される。しかし、稻荷が男神で描かれていたり、八幡が僧形ではなく、烏帽子を被っていたりするなど現存する三十番神像の中では類例を見ない神像が描かれており、本法寺所蔵本を遡る可能性がある。三十番神信仰の変化を表し、中世における信仰のあり方を知る手がかりとなる貴重な資料である。

## 三十番神像一覧

※図版が確認できるもののみ

### ・立像形式

| 所蔵者   | 所在地 | 年代      | 備考                      |
|-------|-----|---------|-------------------------|
| 称名寺   | 神奈川 | 14C か   | 社殿の中に春日を頂点に仰ぐ/春日信仰との関連か |
| 本間美術館 | 山形  | 14C 末か  | 6 列 5 段/制作者は大和絵師?       |
| 立正寺○  | 山梨  | 15C か   | 称名寺本と配列共通               |
| 談山神社  | 奈良  | 16C 初期か | 5 列 6 段/熊野修験との関連か       |
| 安津家   |     | 17C?    | 談山神社本と共通配列/版画           |

### ・坐像形式

| 所蔵   | 所在地 | 年代        | 備考  |
|------|-----|-----------|---|
| 白髭神社 | 滋賀  | 1433      | 5 列 6 段/坐像形式ながら立像形式の図像の交配が認められる/<br>一枚板に描かれ剥落が激しい |
| 個人本  |     | 15C 初期    | 5 列 6 段/山王垂迹曼荼羅との関連性が顕著/制作者は土佐派?                  |
| 本法寺  | 京都  | 1407~1488 | 5 列 6 段/日親賛<br>日蓮宗を中心に定型化していく坐像形式の基準作とされる         |
| 妙満寺  | 京都  | 1407~1488 | 5 列 6 段/日親賛                                       |
| 法華寺○ | 岐阜  | 1549      | 5 列 6 段/日助? 賛                                     |
| 大法寺◎ | 富山  | 1566      | 5 列 6 段/制作者・長谷川信春(等伯)                             |
| 本満寺  | 京都  | 1576      | 5 列 6 段/日重賛                                       |
| 智積院○ | 愛知  | 1580      | 天照、八幡上段/日調賛                                       |
| 頂妙寺  | 京都  | 16C 半ば    | 5 列 6 段/日珧所縁か?/足利絹                                |
| 本圀寺  | 京都  | 16C       | 5 列 6 段/大覚大僧正筆とあるが作風から時代が合わない                     |
| 本行寺○ | 東京  | 1637      | 5 列 6 段/付属添状墨跡あり                                  |

### ・文字形式

| 所蔵  | 所在地 | 年代   | 備考                       |
|-----|-----|------|--------------------------|
| 妙国寺 | 岡山  | 1402 | 三十番神名が書かれ、その周囲に四天王像が描かれる |

○…市指定文化財 ◎…重要文化財

三十番神像 比較表  
(八幡、天照、稻荷、熱田)

|         | 八幡           | 天照      | 稻荷  | 熱田 |
|---------|--------------|---------|-----|----|
| 本立寺(坐像) | 錫杖、袈裟、烏帽子、日輪 | 唐服※伊勢表記 | 男、俵 | 男  |

○立像形式

|       |          |          |       |         |
|-------|----------|----------|-------|---------|
| 称名寺   | 僧形、錫杖、日輪 | 黒束帯※伊勢表記 | 女、劍宝珠 | 男？唐服    |
| 本間美術館 | 僧形、錫杖、日輪 | 男(黒)     | 女、劍宝珠 | 烏帽子直衣   |
| 立正寺   | 僧形       | 束帯※伊勢表記  | 女、劍宝珠 | 唐装      |
| 談山神社  | 僧形、錫杖    | 白束帯      | 女、宝劍  | 男、直衣(緑) |
| 安津家   | 僧形、錫杖、宝珠 | 束帯       | 女、宝劍？ | 男、直衣    |

○坐像形式

|      |                 |                   |       |      |
|------|-----------------|-------------------|-------|------|
| 白髪神社 | 僧形、日輪           | 男                 | 女、宝劍  | 男    |
| 個人本  | 唐冠唐衣<br>※正八幡宮表記 | 女、宝棒？<br>※天照太神宮表記 | 女、合掌  | 女、団扇 |
| 本法寺  | 僧形、扇            | 束帯                | 女、扇   | 女、団扇 |
| 妙満寺  | 僧形              | 束帯                | 女、団扇？ | 女    |
| 法華寺  | 僧形              |                   | 女     | 女    |
| 大法寺  | 僧形、扇            | 黒束帯               | 女、団扇  | 女、団扇 |
| 本満寺  | 僧形、扇            | 黒束帯               | 女     | 女    |
| 智積院  | 僧形、錫杖           | 男？                |       |      |
| 頂妙寺  | 僧形、錫杖           | 女                 | 女     | 女、団扇 |
| 本圀寺  | 僧形              | 黒束帯               | 女     | 女    |
| 本行寺  | 唐冠唐衣            | 女、鏡               | 女     | 女    |

三十番神像 本立寺所蔵



|               |                |                 |                       |                |
|---------------|----------------|-----------------|-----------------------|----------------|
| 14 平野<br>黒束帯  | 13 松尾<br>黒束帯   | 12 賀茂<br>朱束帯    | 11 八幡<br>錫杖、袈裟、烏帽子、日輪 | 10 伊勢<br>朱唐衣   |
| 19 聖真子<br>僧形  | 18(小比叡?)<br>僧形 | 17(大比叡?)<br>朱唐衣 | 16(大原野?)<br>黒束帯       | 15(春日?)<br>束帯  |
| 24 祇園<br>牛頭天王 | 23 住吉<br>束帯    | 22 稻荷<br>白束帯、俵  | 21 八王子<br>黒束帯         | 20 客人<br>女神、団扇 |
| 29 苗荷<br>朱束帯  | 28 兵主<br>武官、弓矢 | 27 三上<br>朱束帯    | 26 武健部<br>黒束帯         | 25 赤山<br>武官、弓矢 |
| 4 氣比<br>黒束帯   | 3 廣田<br>束帯     | 2 諏波<br>黒束帯     | 1 熱田<br>束帯            | 30 吉備<br>黒束帯   |
| 9 貴船<br>黒束帯   | 8 江文<br>朱束帯    | 7(北野?)<br>黒束帯   | 6 鹿島<br>唐冠唐衣、杖        | 5 氣多<br>黒束帯    |

はやしざきさんぼんまつかわらがまあとぐんしゅつどかわら  
**林崎三本松瓦窯跡群出土瓦**

**(1) 林崎三本松瓦窯跡群**

林崎三本松瓦窯跡群は明石市林崎町 3 丁目に所在する遺跡である。平成 8 年度から平成 15 年度にかけて約 1820 m<sup>2</sup>を対象に発掘調査をし、窯跡 16 基が検出された。窯跡、灰原から見つかった遺物としては、丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦、鬼瓦、硯、土錘、こね鉢等があるが、ほとんどが瓦類であることから、瓦を専ら焼いた窯であることが明らかにされた。

**(2) 林崎三本松瓦窯跡群出土の瓦**

出土した瓦のうち最も古いものは康和 4 年（1102）に造営が始まった尊勝寺のものだとされ、その後、1130 年代に造営された法金剛院や仁平 3 年（1153）に造営が始まった鳥羽離宮金剛心院の跡からも当該瓦窯の製品が出土している。また、治承 4 年（1180）に平清盛が遷都した福原京からもこの窯で生産された瓦が多量に供給されていた。最も新しいものでは、建久 4 年（1193）に播磨国を知行国に当てられた文覚上人によって再建された東寺に供給されたものがある。したがって、林崎三本松では、12 世紀初頭から末葉までのほぼ 100 年間、瓦を生産し、海路を用いて、平安京や福原京等へ製品を運んでいたことがわかる。

**(3) 林崎三本松瓦窯跡群出土瓦の意義**

林崎三本松瓦窯跡群で集中的に瓦が制作された背景として、平安時代末に院政による造寺活動が活発となり、当時の政権と深く結びついた播磨守らが自らの地位の安泰や新たな官職を得るために寺院等の造営に関わっていたことがあげられる。

林崎三本松瓦窯跡群出土瓦は、古代から中世への転換期に瓦工人の動向や政治的様相を理解する上で極めて貴重な資料であり、良質の粘土と海運に恵まれた明石の特性を如実に表す資料として極めて価値が高い。



鬼瓦



軒丸瓦





軒平瓦



明石市指定文化財一覧

| No. | 種別   | 名称                             | 所在地         | 所有者               | 指定年月日      |
|-----|------|--------------------------------|-------------|-------------------|------------|
| 1   | 建造物  | 播州明石浦柿本大夫祠堂碑                   | 人丸町1-26     | 柿本神社              | 昭48年 2月 2日 |
| 2   | 建造物  | 月照寺山門                          | 人丸町1-29     | 月照寺               | 昭45年 5月21日 |
| 3   | 建造物  | 織田家長屋門                         | 大明石町2丁目1-38 | 織田 令子             | 昭45年 5月21日 |
| 4   | 建造物  | 善楽寺の平清盛五輪塔                     | 大観町11-8     | 善楽寺               | 昭52年 2月10日 |
| 5   | 建造物  | 住吉神社楼門                         | 魚住町中尾1031   | 住吉神社              | 昭53年 3月11日 |
| 6   | 絵画   | 絵馬「加茂競馬の図」                     | 魚住町中尾1031   | 住吉神社              | 昭47年 2月25日 |
| 7   | 絵画   | 絵馬「森狙仙筆猿の図」                    | 人丸町1-26     | 柿本神社              | 昭52年 2月10日 |
| 8   | 彫刻   | 石造狛犬                           | 人丸町1-26     | 柿本神社              | 昭58年 3月31日 |
| 9   | 彫刻   | 木造毘沙門天及両脇侍像                    | 林2丁目1-12    | 宝蔵寺               | 昭56年 3月19日 |
| 10  | 工芸品  | 光明寺の和鐘                         | 鍛冶屋町5-20    | 浜光明寺              | 昭48年 2月 2日 |
| 11  | 工芸品  | 明石城太鼓                          | 上ノ丸1丁目20-7  | 明石神社              | 昭49年 2月 8日 |
| 12  | 工芸品  | 明石城御殿平面図                       | 上ノ丸2丁目13-1  | 明石市               | 昭49年 2月 8日 |
| 13  | 工芸品  | 藤村暲定作「地球儀」                     | 上ノ丸2丁目13-1  | 明石市               | 昭49年 2月 8日 |
| 14  | 工芸品  | 鰐口                             | 明石市本町1-16-7 | 柴屋町地蔵講中           | 昭51年 2月 5日 |
| 15  | 工芸品  | 緋威金小札胴丸具足<br>獅嚙前立烏帽子形張懸兜付      | 上ノ丸2丁目13-1  | 明石市               | 平 7年 3月23日 |
| 16  | 書跡   | 三十六歌仙絵及和歌式紙                    | 人丸町1-29     | 月照寺               | 昭45年 5月21日 |
| 17  | 書跡   | 柿本人麿神位・神号に関する文芸資料等及<br>明石藩関連資料 | 人丸町1-29     | 月照寺               | 平22年3月11日  |
| 18  | 歴史資料 | 大和型船模型                         | 魚住町中尾1031   | 住吉神社              | 昭55年 3月21日 |
| 19  | 歴史資料 | 子午儀                            | 人丸町2-6      | 明石市               | 昭58年 3月21日 |
| 20  | 無形民俗 | 大蔵谷の囃口流し                       | 明石市大蔵本町6-10 | 大蔵谷民俗芸能保存会        | 昭50年 2月 6日 |
| 21  | 無形民俗 | 大蔵谷の牛乗り                        | 明石市大蔵本町6-10 | 大蔵谷民俗芸能保存会        | 昭50年 2月 6日 |
| 22  | 無形民俗 | 明石浦のおしゃたか舟                     | 材木町8-10     | 明石浦のおしゃたか舟<br>保存会 | 昭50年 2月 6日 |
| 23  | 無形民俗 | 藤江の的射                          | 東藤江2-15     | 的射行事保存会           | 昭50年 2月 6日 |
| 24  | 無形民俗 | 清水のオクワハン                       | 魚住町清水1377   | 清水村民俗行事世話人        | 平 6年 1月27日 |
| 25  | 有形民俗 | 住吉神社の能舞台                       | 魚住町中尾1031   | 住吉神社              | 昭51年 2月 5日 |
| 26  | 史跡   | 旧明石藩主松平家廟所                     | 人丸町2丁目26    | 長寿院               | 昭48年 2月 2日 |
| 27  | 史跡   | 横河重陳墓                          | 二見町東二見1643  | 観音寺               | 昭48年 2月 2日 |
| 28  | 史跡   | 林崎掘割渠記碑                        | 烏羽1975-1    | 明石掘割土地改良組合        | 昭49年 2月 2日 |
| 29  | 史跡   | カゲユ池古墳(1号墳)                    | 藤江2030      | 明石市               | 昭51年 2月 5日 |

| No. | 種別    | 名称           | 所在地         | 所有者  | 指定年月日      |
|-----|-------|--------------|-------------|------|------------|
| 30  | 史跡    | 光明寺の明治天皇行在所跡 | 鍛冶屋町5-20    | 浜光明寺 | 昭51年 2月 5日 |
| 31  | 天然記念物 | 瑞応寺のそてつ      | 二見町東二見1910  | 瑞応寺  | 昭47年 2月25日 |
| 32  | 古文書   | 明石藩主地子免許状    | 上ノ丸2丁目13-1  | 明石市  | 昭47年 2月25日 |
| 33  | 歴史資料  | 日本標準時子午線関係資料 | 人丸町2-6      | 明石市  | 平19年 3月15日 |
| 34  | 考古資料  | 藤江別所遺跡井戸内出土品 | 上ノ丸2丁目13-1  | 明石市  | 平19年 3月15日 |
| 35  | 史跡    | 幣塚古墳         | 魚住町清水1275-1 | 明石市  | 平19年 3月15日 |